

地震に備えて準備しましょう

わが国は地震の多発国です。阪神大震災をはじめとし、過去にも地震によって多くの被害を受けてきました。地震の発生を防ぐことはできませんが、私たちの日ごろからの準備によって、地震による被害を最小限に抑えることは可能です。

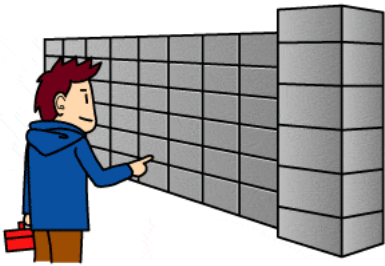
大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きても「あわてず、落ち着いて」行動するために、行動パターンを覚えておきましょう。



●地震が起こる前の安全対策

ブロック塀・門扉の点検

地震災害で目立つのがブロック塀の倒壊による負傷です。規格にあっていなかったり老朽化したものは、修理・補強や生垣に変えるなどの対策をしましょう。



家具の転倒防止・落下物の対策

大地震時は、タンスや食器棚などが倒れてケガをすることがあります。家具などは、家具転倒防止金具などでしっかり固定しておきましょう。



消火用品の用意

大地震時は火災により被害が拡大することがあるため、日ごろから火の元に注意するとともに、万一の出火に備えて、消火器を用意し、その使い方を身につけておきましょう。



●地震の揺れと想定される被害

震度 0	●人は揺れを感じない	震度 5弱	●棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある ●窓ガラスが割れることがある ●電柱が揺れているのがわかる
震度 1	●屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる	震度 5強	●多くの人が行動に支障を感じる ●タンスなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある ●自動車の運転が困難になる
震度 2	●屋内にいる人の多くが揺れを感じる ●つり下がった電灯などがわずかに揺れる	震度 6弱	●立っていることが困難になる ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する ●耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある
震度 3	●屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる ●棚にある食器類が音を立てることがある ●電線が少し揺れる	震度 6強	●はわないと動くことができない ●固定していない家具のほとんどが移動、転倒する ●耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある
震度 4	●かなりの恐怖感がある ●つり下げたものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てることがある ●電線が大きく揺れ、歩いている人も揺れを感じる	震度 7	●自分の意思で行動ができない ●ほとんどの家具が移動し、飛ぶものもある ●耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損することがある

時間経過別行動マニュアル

地震発生

- 落ち着いて、自分の身を守る
机の下などへもぐる。倒れている家具や落下物に注意。
- 火の始末をすばやく
コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する



1~2分

- 火元を確認・初期消火
- 非常持ち出し品を用意する
- 家族の安全を確認
- がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難
- 靴をはく
ガラスの破片などから足を守る。



避難準備

3分

- 隣近所の安全を確認
火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。
- 余震に注意
大きな地震の後には余震が発生するので注意。

5分

- ラジオなどで情報を確認
間違った情報に惑わされないように。
- 電話はなるべく使わない
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する
ブロック塀やガラスに注意。車はなるべく使用しない。

5~10分

- 出火防止を
ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを切る。
- 自宅を離れるときはメモを残す

避難開始

10分~数時間

- 消火・救出活動
隣近所で協力して、消火や救出を。
自分たちで手に負えない場合は、消防署などへ通報する。

- 生活必需品は備蓄でまかなう
災害発生から3日間は、外からの応援は期待できない。
- 災害情報、被害情報の収集
広報等に注意する。
- 壊れた家には入らないこと

~3日くらい



避難生活では

- 自主防災組織を中心に行動を
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を

